

令和5・6年度 県教育委員会指定研究協力校

研究のまとめ

研究主題

対話を通して、学びを高め合う児童の育成



令和7年1月9日

薩摩川内市立川内小学校

目 次

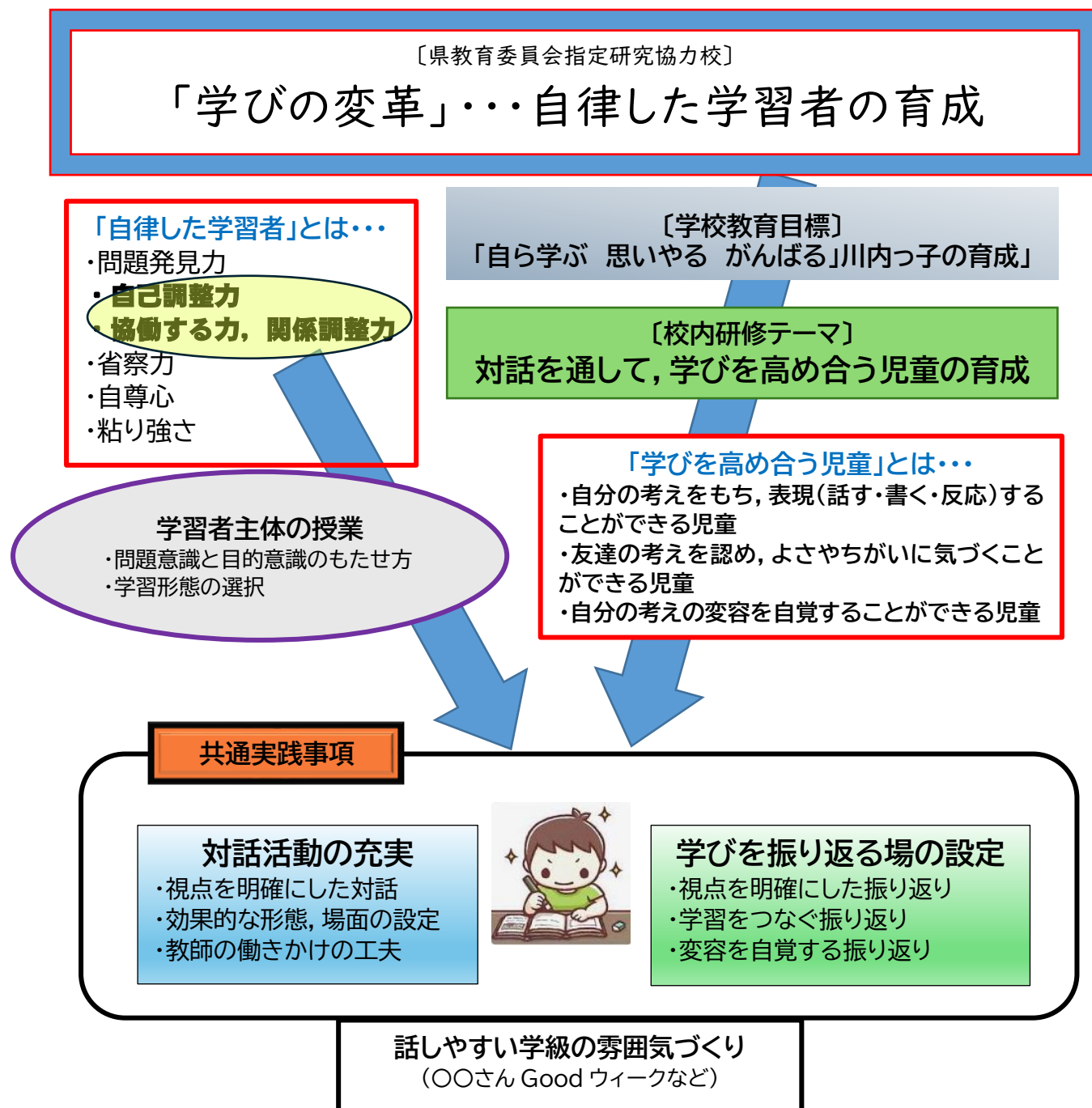
1 研究の全体構想	3
2 共通実践事項	
(1) 対話活動の充実	4
(2) 振り返る場の設定	5
3 研究の実際	
(1) 第3学年算数「たし算とひき算」	6
(2) 第5学年国語「要旨を読もう『見立てる』」	8
(3) 第3学年算数「1けたをかけるかけ算」	10
4 成果と課題	12
5 研究のあゆみ	13

Ⅰ 研究の全体構想

未来を生きる子供たちに求められる資質・能力として、自分と異なる他者と主体的・協働的に問題解決をしていく能力が求められている。

本校は、令和5年度、県教育委員会から「自律した学習者の育成」を目指して2年間の研究協力校の指定をいただいた。自立した学習者を育成するためには、従来の教師主導の受け身的な授業から、学習者主体の授業へと児童観、指導観を変えていく必要がある。

そこで、これまでに本校が研究を進めてきた「対話」と「振り返り」を中心に、研究テーマを「対話を通して、学びを高め合う児童の育成」として実践的に研究を進めていくことにした。



2 共通実践事項

(1) 対話活動の充実

「自律した学習者」(協働する力・関係調整)

- ・分からない点やできなかった点を見直し、次に生かそうとする子ども
- ・対話を通して対立やジレンマを乗り越えようとする子ども

「学びを高め合う」児童を育成するため、授業の中で対話活動を取り入れていく。

また、対話活動は、右の図のように、3つの資質・能力を一体的に育成するために位置付けていく。授業のどの場面で、どのような形態で対話活動を行えばよいかという視点をもって、授業改善を図る。

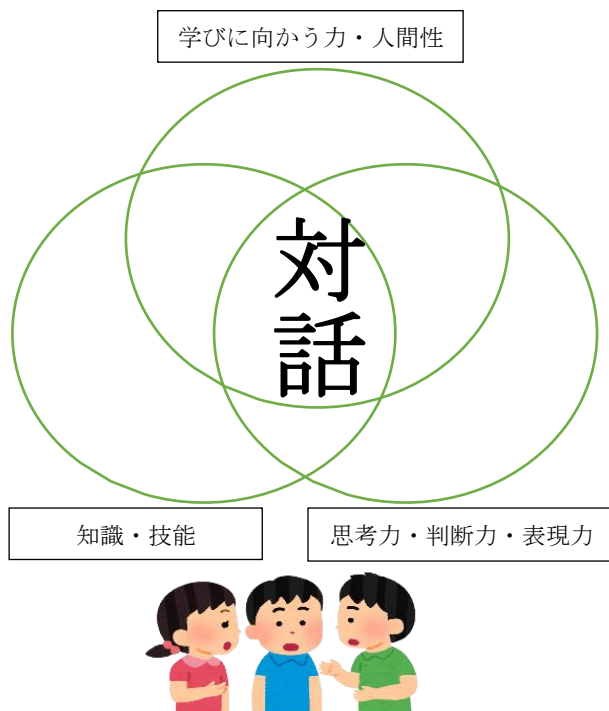
対話活動を行う際の留意点として、4つの視点を設けた。

対話活動の留意点

- ① 育成したい資質・能力の明確化
- ② 対話活動の活性化
- ③ 教師の介入
- ④ 対話のよさを実感させる振り返り

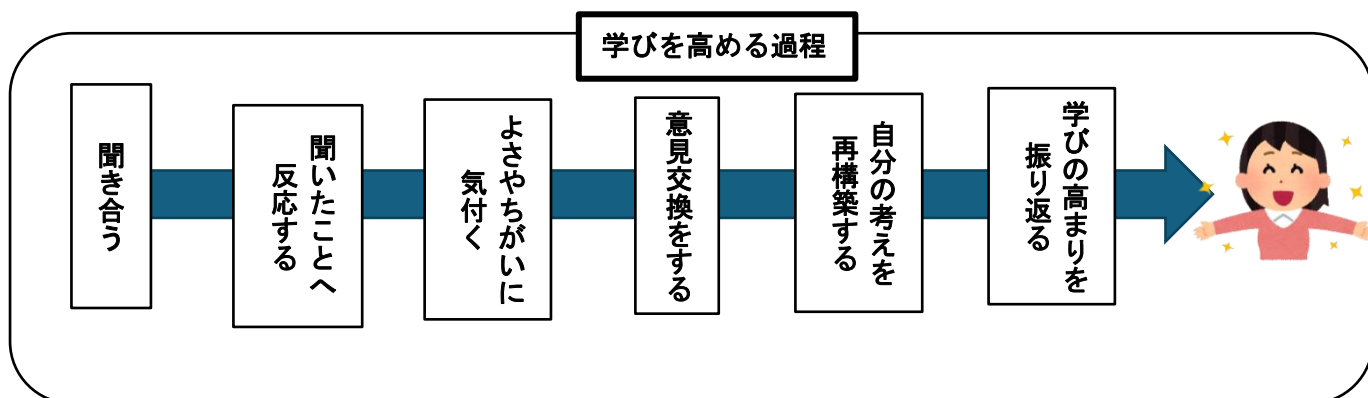
1年目

2年目



1年目は、①・②を中心にしながら対話活動を授業に取り入れた。実践していく中で、どのように教師が介入するかも重要であることが課題として出てきた。そこで、2年目は、③・④もしっかり視野に入れながら研究を進めた。

対話活動の充実による学びを高める過程として、次のように考えた。対話活動のスタートとして、まずは「聞き合う」。学年では区切らず、ゴールの「自分の考えを再構築する」「学びの高まりを振り返る」姿を目指しながら実践を積み重ねた。



(2) 振り返る場の設定

「自律した学習者」(自己調整力)

・学びの見通しを持ち、自ら学びの方法を選択・決定し、自らの学びを調整しながら実行できる子ども

児童が主体的に学習し、どのような学びができたのかを自覚し、次の学習への意欲につなげるために、振り返る場を設定する。

川内小学校では、次の3つの点に留意して、振り返りをさせている。

① 視点を明確にして振り返る。

- ・ きのうの学習は何をしたのか。
- ・ わかったことやできるようになったことは何か。

② 学習をつなぐために振り返りを活用する。

- ・ もっと知りたいことや調べたいことは何か。
- ・ 前時の振り返りを読んで、今日の学習で何をしたいか。

③ 考えの変容を自覚する。

- ・ 自分の考えがどのように変わったか。→ 広まり、高まり
- ・ 何によって考えが変わったか。→ 対話活動のよさの実感

1年目

2年目



振り返りの方法として、次のような方法を示しながら、学級・学年に応じて実践している。

チェック法 (◎○△)	回想法 (何をした)	三文振り返り (何をした・何ができた ・次なにをしたい)	変容振り返り (考えがどう変わった ・何によって深まった)	YWT 法 (Y: やったこと・ W: わかったこと・ T: つぎにやること)
----------------	---------------	------------------------------------	-------------------------------------	--

《3年生算数の振り返りの例》 振り返りシートを作成。

↓「大きな数」↓ 「三角形と角」→

10でわる計算ができた。10でわると、位が1つ下がる。100も1000も0の数分、位が下がるはず。(その分0があれば)つまり、きのうのはんたい!

10000000の位まで読めました。万の位と千までの位を分けたら読みやすかったです。0を書きわすれないようにしたいです。

今日は、なかま分けをしました。さいしょは、2つの辺が等しいことを考えていなかったのもちがえてしまいました。そして今日学んだことで新しくおぼえたことが二等辺三角形と正三角形とただの三角形です。ポイントは、長さが等しい辺がいくつあるかで分けられます。

《6年生算数「ならべ方と組み合わせ方」の振り返りの例》 ロイロノートで提出。

今日は四桁の整数は何通りあるかについて学習した。僕は、千の位に使われてる数字以外が百、十、一の位に2回ずつ使われていることに気が付いた。また、思いついた数字を適当に書くのではなく、そろえて書くと間違いが分かりやすくてできるということも学んだ。

今日は【組み合わせが何通りあるか】の調べ方を学びました。最初は並べ方を調べた時の学習を生かしてやって12通りだったけど、1組と2組や2組と1組のように同じものを使っていることに気が付き図や表を使ってくれた。

私は表をかいたけど、友達は何をかくていてパスワードの問題の時に何をかくてといてみたらちょっと簡単だった。

友達の意見を聞いて、表や、図とは別の考え方などが分かった。友達の意見をじっくり聞くというのが算数の考え方では大事になってくると思った。

3 研究の実際



算数科 工夫して計算する 「たし算とひき算」

1 育成したい資質・能力

3位数や4位数の加法及び減法計算のしかたや、加法や減法の計算が2位数などの基本的な計算をもとにできることなどを理解し、3位数や4位数の加法及び減法の計算が筆算でできる。また、計算の確かめができる。

2 授業の流れ

学習過程	主な学習活動
問題意識をもつ 学習を見通す	1 問題場面を生活場面に近づけ、筆算を使わずに答えを求めるにはどうすればよいかという問題意識をもつ。 2 これまでの学習を活かせないか見通しをもつ。
自分で考える	3 これまでの学習を活かして、工夫して計算することを確認める。 ・足される数、足す数を分けて考える。 ・きりのいい数で考える。
友達と考える (対話活動)	4 どのような方法で計算をしたか話し合う。 5 自分の考えと友達の考えの共通点や相違点について話し合う。
学習をまとめる	6 出てきた計算方法の共通する部分に着目させながらまとめる。
学習を振り返る	7 「学習したこと」「わかった・できたこと」「次への問い」で振り返る。

3 振り返りを活かした導入

前時の振り返りを確かめ、これまでの学習と比べることで既習事項と未習事項をはっきりとさせ、めあてを考えることができるようにした。こうしたことで、前時からの繋がりと新しい問いの発見など児童が主体的に学習を進めていくことに繋がった。



4 話し合いマスターへの道

本時では、一人学び⇒グループ学習の順に学習を進めた。一人学びで自分の考えをしっかりと持たせることが話し合いの際には重要であると考えた。また、話し合いでは、①相手の話を最後まで聞くこと、②反応すること、③「共通点」「相違点」を考えながら話し合いを進めることを意識することで話し合いが活性化するのではないかと考えた。



1人学び



グループ学習



<ある話し合いの場面>

A：答えは出せたんだけど，なんて説明すればいいのか分からない。
B：ぼくも A 君と同じで，数を計算しやすい数に直して考えたよ。
A：そうなの？
B：ほら，35 を 40，46 を 50 にして計算すると， $40+50=90$ になるよね。多くした分の $5+4=9$ だから 90 から 9 を引くと 81 になるよ。
A：ありがとう。じゃあ次は自分で説明してみるね。

A 児は，これまでの学習から数を計算しやすい数に変えて計算をしていけば解けそうだと気づき，答えを求めることができていたが，それをうまく説明できていなかった。そこで，別の児童に A 児の考えと一緒に説明してもらうことで自分の考えが明確になり，他の児童へ説明を始めた。A 児は嬉しそうに説明をしていた。

5 学習の振り返り

「今日何をした」「どんなことが分かった・できた」「友達の良かったところ」という 3 つの観点で振り返りをノートに書かせて発表させた。

今日は筆算を使わないで計算する学習をした。頭の中で筆算をしていた。筆算って便利だなと思った。

今日は暗算を学習した。数をいろいろ分けたり，簡単な数にしたりして計算するのが楽しかった。

暗算を学習した。筆算の勉強をしてきたから筆算の考え方を使って解くことができた。次は，他の数でも計算してみたい。

暗算は意外と簡単だと思った。説明で困っていたら友達が一緒に考えてくれて，説明ができてよかった。

6 授業の考察

○ 学習者主体の面から

本時における主体的学習を促したのは，これまでに学習してきた筆算を使えない状況でどのように計算をすればよいかという問題意識と，学習の目的達成に向けてどのように学習を進めるかという見通しをもったことである。

○ 対話活動の充実の面から

自分が考えた計算方法や数の分け方を友達と比べることで，必然性を持った対話が生まれた。なぜそういう計算にしたのか，何に注目して数を分けたのかを聞き合うことで，加法や減法の理解につながった。しかし，一人の児童の発言に流されてしまうグループもあり，話し合いが止まってしまうことがあった。

○ 学びの振り返りの面から

振り返りは「学習したこと」「わかったこと」を中心に少しずつ書く習慣ができていた。今後は，「友達との交流で気付いたこと」や「新たな疑問」がもてるように指導していきたい。



国語科 文章の構成を捉える 「見立てる」

1 育成したい資質・能力

段落の関係や事例，理由を表す言葉に着目し，段落の並び方を考える活動を通して，要旨をとらえるための文章構成について理解することができる。

2 授業の流れ

学習過程	主な学習活動
問題意識をもつ 学習を見通す	1 要旨を理解するために，文章構成を捉えるという目的をもつ。 2 ばらばらの段落をどのように並び変えればよいかという問題意識をもつ。 3 どの言葉に着目すればよいかという見通しをもつ。
自分で考える	4 ロイロノートに示されたカードを並び変える。
友達と考える (対話活動)	5 どの言葉に着目したかを根拠に，話し合う。 6 筆者の考えと事例がどこに書いてあるかという文章構成の型を話し合う。
学習をまとめる	7 着目した言葉や全体構成の型をまとめる。
学習を振り返る	8 「学習したこと」→「わかった・できたこと」→「次への問い」で振り返る。

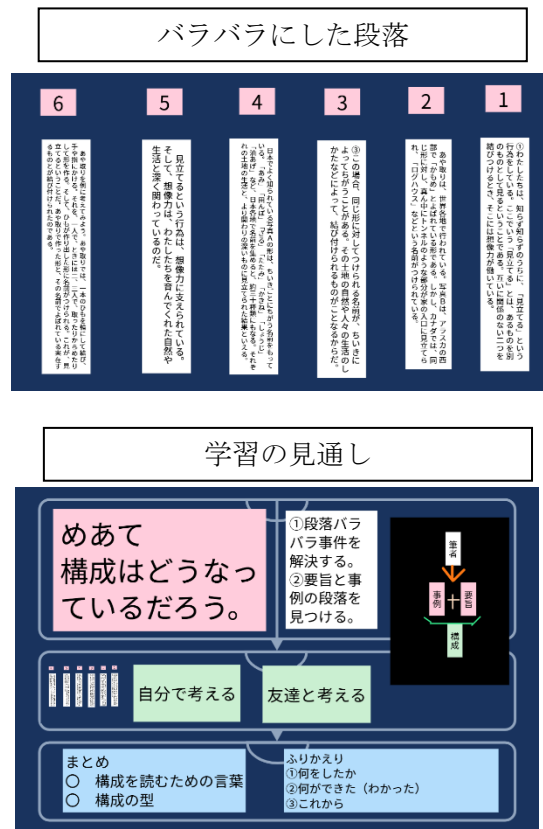
3 学習者主体の授業

本時では，要旨を捉えるために文章構成を読むという目的を児童がしっかり自覚できていた。そして，バラバラの段落を提示することで，「どんな順番かな」「構成はどうなっているのか」という問題意識をもつことができていた。このように，学習目標と問題意識を明確にもたせることが重要である。

また，学習の見通しをもたせるために，モニターに本時の展開を示した。見通しには，学習のゴールとそのプロセスという2つがあり，どこを目指して，どのように解決していくかという見通しは，学習者にとってとても大切である。

4 対話の目的と教師の介入

本時では，対話の目的を明確にし，2つの場面に対話を位置づけた。何のために対話をさせるのが明確であれば，どのような介入をすればよいかははっきりしてきて，効果的な介入ができる。



具体的な介入の一部を紹介する。

- ・なぜそのような順序にしたのかを問うことで、事例と筆者の考えを読み分けることに気付かせようとした。
- ・考えが違っている児童同士を集め、説明し合うことで事例と筆者の考えの読み分けをさせようとした。
- ・自分の考えを他者に説明させることで、自分の考えの深まりを実感させようとした。

＜ある対話の場面＞

T：どうして筆者の考えが初めと終わりにあるの？
A：だって、これまでの説明文ではそれが多かったから。
T：どこからそのような構成だと考えたの？
A：うーん。言えないけど・・・
T：Bさん、来てごらん。あなたもはじめと終わりに筆者の考えが書いてあると思ったの？
B：はい。
T：じゃあ、Aさんに説明してごらん
B：初めにも終わりにも「想像力が働いているとか、想像力に支えられているとか、繰り返されているよ。大事なことは繰り返して述べるから、初めと終わりが筆者の考えだと思います。
A：そうそう。
T：Aさん、どう？納得した？
A：はい。
T：じゃあ、Cさんにあなたの考えを説明してごらん。

A児は、何となく双括型の構成には気付いていたが、それをうまく説明できていなかった。そこで、別の児童の説明を聞いて自分の言いたいことが明確になり、他の児童へ説明を始めた。A児は嬉しそうに説明をしていた。このように「対話活動」は、ダイナミックで思わぬ展開につながることもある。

5 学習の振り返り

「今日何をした」「そして何が分かり・できて」「次に何をするか」という3つの観点で振り返りをノートに書かせて発表させた。また、既習の説明文の文章構成を捉える演習をさせ、学びの定着を確かめさせた。



6 授業の考察

○ 学習者主体の面から

本時における主体的学習を促したのは、文章構成を捉えるために段落をどう並び替えればよいかという問題意識と、学習の目的達成に向けてどのように学習を進めるかという見通しを持ったことである。

○ 対話活動の充実の面から

自分が考えた段落の並びを友達と比べることで、必然性を持った対話が生まれた。なぜそういう順番にしたのか、どこに着目したのかを聞き合うことで、段落相互の関係の理解につながった。

○ 学びの振り返りの面から

振り返りは「Y（やったこと）W（わかったこと）T（次やりたいこと）」の3観点で書く習慣ができていた。今後は、分かったことに対する「問い」がもてるように指導していきたい。



算数科 かけ算の筆算の仕方の理解を深める 「1けたをかけるかけ算」

1 育成したい資質・能力

筆算の中にある空欄(被乗数)を求める活動を通して、(2, 3位数) × (1位数)の筆算の仕方について理解を深め、正しく筆算で計算することができる。

2 授業の流れ

学習過程	主な学習活動
問題意識をもつ 学習を見通す	1 かけ算の筆算の仕方を理解し、これまで培った計算力を生かして、虫食い算に挑戦するという問題意識をもつ。 2 「1の位から計算」「乗数のかけ算九九」「くり上がり」に着目し、プロセスについての見通しをもつ。
自分で考える 友達と考える (対話活動)	3 一人で考えたり、ペアで考えたり、グループで考えたり、自分で形態を選択し、虫食い算の問題を解決する。 4 どこに着目したかを根拠に、話し合う。 5 筆算の仕組みの復習から、きまりの発見へと見方・考え方を広げる。
学習をまとめる	6 答えや考え方について全体で確認し、乗法の筆算の仕方をまとめる。
学習を振り返る	7 「わかった・できたこと」→「考え方やポイント」→「次に向けて」で振り返る。

3 学習者主体の授業

本時では、かけ算の虫食い算をするという目的を児童がしっかり自覚できていた。積がぞろ目になっているかけ算を提示することで、数字のもつ美しさを感じ取り、「やってみたい」という意欲をもつことができたと考える。

また、学習の見通しをもたせてから取り組ませることで、難しさを感じている児童も、「できそう」「やってみよう」という意欲をもって取り組むことができた。

問題を解決する場面では、形態を固定化せず、自分で選択させた。一人でじっくり考える児童もいれば、教室を自由に動き回り、友達と相談しながら解決する児童もあり、問題解決に向けて主体的に取り組む姿を見ることができた。

1人で
じっくり



2人で相談

ぞろ目で「やってみたい！」

計算練習に取り組みましょう！

① $37 \times 3 = 111$

かける数は全部3だね

② $74 \times 3 = 222$

答えがぞろ目になっているぞ！

③ $111 \times 3 = 333$

444, 555, ...
と続くのかな？

④

⑤

999の次は
1111かな？

学習の見通し

虫食い算を通して、
筆算の仕組みを復習
・一の位から計算
・かけ算九九
・繰り上がり

見
通
し
の
ポ
イ
ン
ト

4 対話の目的と教師の介入

本時では、虫食い算の問題を解決する場面对話活動を位置付けた。前ページで述べたとおり、形態を固定せずに行うことで、児童が主体的に活動する場ともなった。

まずは、虫食い算をすることで、自然と計算練習をすることにつながり、解く過程で筆算の仕組みの復習になることをねらった。そして、対話活動で解き方を説明することで、理解を深めることができた。計算が早く終わる児童には、さらに発展して、「きまりの発見」をして考えが広がることを目的とした。実際は、きまりを発見した児童が1人だったため、対話活動の中での広がりはありませんでしたが、全体で紹介することできまりに気づき、新たな考え方に触れる機会をもつことができた。

また、6月の5年生の研究授業で、対話活動における教師の介入の大切さを確認していた。そこで、次のような介入を意識した。

- ・ 答えを教えるだけにとどまらないように、どこから計算したのか、どうしてやればできたのかを説明させた。
- ・ 筆算の仕方の理解を深めさせるため、なぜそのような順序で計算したかを説明させた。
- ・ 考え方を広げるため、考えが違う児童や新たな考えを見つけた児童をつなげた。

＜ある対話の場面＞

A：先生、おもしろいことに気づいたよ。（かける数が37ずつ大きくなっていることを説明）

T：すごいね。（計算が終わった児童に）Aさんがおもしろいことに気づいたよ。聞きに行ってください。

B：何に気づいたの。

A：ほら、かける数を見て。（数字に矢印を書きながら）37に37をたすと74になるでしょ。～

A児は、自分が気づいたことをワークシートに矢印を書きながら説明し始めた。説明を聞いたB児は、自分でも計算して確認しながら、「本当だ。よく気づいたね。」とA児に伝えていた。そこで、教師は「かける数だけかな。」とヒントを出し、二人はさらに考え始めていた。

5 学習の振り返り

「できたこと・わかったこと」「考えたことやポイント」「次に向けて」という3つの観点で振り返りシートに書かせた。シートに書かせることでこれまでの学習の経緯が一目でわかるとともに、継続して書くことで振り返る習慣が身に付き、観点をおさえた振り返りが書けるようになった。

6 授業の考察

○ 学習者主体の面から

本時における主体的学習を促したのは、そろ目の数字に関心をもち、虫食い算を解くという目的達成に向けて自由に動き回れる対話活動の場を設定したことである。

○ 対話活動の充実の面から

「虫食い算」を解くために説明し合うことで、活発な対話活動が行われた。どのような順で計算したのか、考えるポイントは何かを聞き合うことで、かけ算の筆算の仕方の理解につながった。

○ 学びの振り返りの面から

振り返りシートで、3観点で書く習慣ができていた。今後は、児童の振り返りを授業の中で活用して、さらに学習者主体の授業が展開できるようにしていきたい。

4 成果と課題

本校では、自律した学習者を育てるための学習者主体の授業改善に向けて、「対話」と「振り返り」に焦点を当てて研究を進めてきた。実践研究を通して、全職員で確認できた成果と課題を以下にまとめる。

(1) 学習者主体の授業

学習者主体の授業に最も重要なことは、学習者である児童が、問題意識と学習のゴール・プロセスの見通しをもつことである。授業実践の中では、問題意識、目的意識、学習の見通しをもった学習者が、学習方法や学習形態を選択して主体的に学習に取り組む姿が見られた。また、課題を児童の実態に合わせて工夫することで、学習に対する意欲が向上し、「やってみたい」「できる」と児童が感じることができた。

今後は、このような学習者主体の授業を日常化していく必要がある。また、教科や学習内容に応じて、問題意識や目的意識をどのようにもたせていけばよいか、学習環境をどのように整えていけばよいかなどについて研修を深めていきたい。

(2) 対話活動の充実

どの資質・能力を育成するために、どこにどのように対話活動を設定するのかを明確にしながら実践研究ができた。対話の目的が明確になると、効果的な教師の介入が期待できることも明らかになった。児童たちも対話活動を繰り返すことで、協働的な学びに慣れてきた。また、対話活動を取り入れることで、発表への意欲を高めたり、理解を深めたりすることができた。お互いの話を聞き合うことで、思いやりの気持ちも感じることができた。

課題としては、なかなか言葉にできなかったり参加できなかったりする児童への手立てである。教師の介入がなければ対話が続かない場合も多いので、伝える力を一人一人につけていかなければならない。また、対話活動の見届けや評価のしかたについても難しさを感じた。今後は、対話を通して深まった学びや対話の良さを実感させながら、より充実した対話活動をめざしていきたい。

(3) 学びを振り返る場の設定

何をして、何ができて（分かり）、次は何をするといった基本的な振り返りの習慣化が図られたことが大きな成果である。また、授業の終末段階だけでなく、振り返りを次時の導入段階に設定することで、学習の連続性が保障できた。さらに、振り返りの指導によって、学びに向かう力・人間性等の涵養を図る指導ができた。振り返りを上達させていくためには、それに対してのコメントや評価をつけていくことや、上手に書けた児童の振り返りを紹介することなどが効果的である。振り返りによって、教師にとって授業の反省材料となり、授業改善につなげることもできた。

今後は、振り返りを主体的な学びにつなげていく研修を深めていきたい。具体的には、「できた・分かったこと」に対する問いをどうもたせるか、連続した学びをどのように実現していくか、主体性、協働性などの非認知能力をどのように育んでいくかについて実践研究を続けていきたい。

5 研究のあゆみ

年	月	日	曜	内 容
令和5年度	5	1	月	・年間計画，研究の方向性の確認
		29	月	・テーマ研修（理論），個人テーマについて ・学年部研修（研究授業に向けて）
	6	26	月	・研究授業Ⅰ「算数」 「たし算とひき算」（第3学年 税所 崇 教諭）
	8	21	月	・レポート報告会①（前期振返り）
	9	4	月	・学年部研修…前期振返りを受けて，後期の取組について
	10	30	月	・理論まとめ発表
	1	15	月	・レポート報告会②（後期振返り） ⇒子供たちの成長，次年度に向けての改善案
	3	4	月	・研究のまとめ（成果と課題），来年度の研修について
令和6年度	4	16	火	・年間計画，研究の方向性の確認
	5	27	月	・研究授業に向けて（指導案検討）
	6	24	月	・研究授業Ⅰ「国語」 「要旨を読もう『見立てる』」（第5学年 加藤 美土里 教諭）
	8	21	水	・実践報告会（ロイロノートで発表）
	10	28	月	・研究授業に向けて（指導案検討）
	11	12	火	・研究授業Ⅱ「算数」 「1けたをかけるかけ算」（第3学年 森山 航平 教諭） ※「三方よし，学び合いプロジェクト（L・E・O）」における授業公開
	1	9	木	・2年間のまとめ ※ホームページで公開
	3	3	月	・来年度の研修について